

2023年度

事業報告書

社会福祉法人 恭生会

基本理念

『私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。そして、利用者さまの人権を尊重し「地域の皆さまに信頼され、愛される施設」を目指します』

社会福祉法人 恭生会のミッション（社会的使命）

『恭生会サービス提供圏域に住む方々の福祉の向上に積極的に関わり、地域社会の幸福度を向上させます』

社会福祉法人の位置づけとして社会福祉法第24条1項に、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効率的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び透明性の確保を図らなければならない」とあります。

恭生会としても社会福祉法人の果たすべき役割を認識し、社会福祉事業を中心とした質の高い福祉サービスを提供するとともに、地域における多様化する福祉ニーズにきめ細かく対応し、地域社会に貢献していくことを目指します。

具体的には、以下の内容です。

1. 法人内連携強化、その後サービス提供圏域連携強化
 - ① 各施設の役割の明確化
 - ② 法人共通イベントの開催
2. 法人サービス提供圏域内の生活課題支援（ソーシャルワーク機能）強化
 - ① 生活課題抽出機能・支援機能の強化
 - ② 社会貢献事業拠出金の拠出先の見直し
3. 地域拠点施設（事業所）化の推進
 - ① 各職種スキルの向上
 - ② 相談先としての想起順位の向上
 - ③ 地域に信頼される施設づくり
 - ④ 地域の中での同業他社とは違う先駆的な取り組みの推進
4. 感染症・災害への体力強化
 - ① 感染症対策の強化
 - ② 業務継続に向けた取り組み（BCP 策定）と強化

I 概要

<2023年度取り組み評価>

全体報告

2023年5月8日の新型コロナウイルスの5類移行を受け、感染状況を考慮し、感染対策を行いながら、以前のような利用者への支援取り戻すことを実践してまいりました。社会情勢に合わせたメリハリのある感染対策と、リスクと制限の解除というバランス調整を行いながらの1年となりました。

中長期事業計画で定めている、私たち和朗園の社会的使命「地域社会の福祉を向上し、その信頼をもって競争力を高め、総合介護福祉施設 和朗園の価値を高める」ということを念頭に下記の取り組みを行いました。

- ①社会福祉法人の本旨を忘れず、社会に対し貢献していくこと。
- ②たとえ重度な要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような支援体制を構築する。
- ③在宅での生活維持が困難な方に対し、施設入所により、質の高い入所生活を提供する。
- ④法人としての競争力を向上させ、税金が投入されている施設資源を適正に維持する。
- ⑤経営組織のガバナンスを強化し、事業運営の透明性を向上させる。

今年度は、前年度に引き続き、和朗園の社会的使命達成のために次の具体的目標に取り組みました。

<目標>

1. 事業所間や事業所内連携のとれた複合的サービスの提供

グループ内訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所等とのICT活用による医療・介護連携強化に取り組み、医療ニーズに対する対応力の向上や、カンファレンスを開催し、多職種チームによるチームケアに取り組んでいきます。

→ ICT情報共有ツールである「メルタス」、電子カルテ「ブルーオーシャンシステム」を活用し、グループ内の事業所と情報の共有を図りました。カンファレンスの開催頻度も増やし意見交換の場を増やしました。

2. 困難ケース(複合的課題ケース)の対応力強化

複合的課題(貧困・介護・障がい等の複合的な課題のある事例)の対応力を強化するために、OJT・OFF-JT環境整備やフォロー体制の構築により、職員の援助スキルの向上を図ります。

→ 包括支援センター、CSWなど相談窓口からの依頼には和朗園全体として取り組み

経験を共有することで対応力の強化に取り組みました。法人の社会貢献事業など社会資源を活用し、総体的に支援も行いました。

3. 認知症ケアチームの地域活動・高度認知症ケア

認知症介護指導者や実践リーダー・実践者とともに、最新の認知症ケア援助技術等を活用し認知症ケアの質の向上及び、高度認知症ケア教育体制整備に取り組みます。そしてその実践のノウハウ等について、地域へ還元していきます。

→ 認知症ケアに関するカンファレンスを開催し職員の認知症ケアスキル向上に努めました。また、認知症ケア学会に機関認定を受けています。

4. 働いてみたいと思えるような魅力的な教育制度の再構築

職員自身の成長を実感できるような、教育制度の再構築を目指します。具体的には、等級制度とリンクした教育制度の導入を検討し、現在のプリセプター制度等に上乘せした教育制度全体の再編を目指します。

→ 役職者向けに外部講師を招いてコーチング研修を1対1や少人数で定期的に行い、新たな知識習得や課題解決にむけての取り組みを継続しました。

5. 予算管理の徹底

介護人材不足及び処遇改善加算等による人件費高騰に対し、職員定数管理を通して適正配置及び適正人件費率を目指します。また、非常勤比率 25%を目標とします。

→ 毎月、職員定数管理を行い適正な人員配置に努めました。

6. 広報活動の強化

質の高い職員を確保していくために、ワークライフバランスの推進や、和朗園での様々な取り組みについて、SNSを活用した広報等の活動を通して、和朗園の知名度向上を目指します。そして、職員採用につながることを目指します。

→ インスタグラムを通じ情報の発信を継続し、ホームページも新たに改訂しました。

II 利用者状況

1. 介護度別状況

特別養護老人ホーム (延べ人数)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2023年度 合計	2022年度 合計	差異
4月	30	60	718	1066	1050	2924	2754	170
5月	31	19	762	1031	1136	2978	3005	-27
6月	30	16	761	990	1073	2870	2916	-46
7月	31	2	829	1057	1142	3061	3047	14

8月	31	0	775	1134	1132	3072	3030	42
9月	30	0	726	1097	1018	2871	2953	-82
10月	31	0	731	1139	1063	2964	3018	-54
11月	30	0	676	1130	1039	2875	2957	-82
12月	31	0	708	1057	1071	2867	3007	-141
1月	31	0	709	1075	1109	2924	2925	-1
2月	29	0	679	1007	1040	2784	2512	272
3月	31	31	660	1002	1166	2890	2855	35
合計	366	128	8734	12785	13039	35080	35010	70

昨年対比 100.1 % 平均介護度 4.1

ターミナル期の取り組みについて

特養は、終身的施設であるということから、「ひとりひとりにあったケア」への取り組みが早期に出来るように、入所時に「心身の情報」の聞き取りを開始しました。介護職員と情報を共有し、早期の個別ケアが出来てきていると感じています。

また、看取り期に入った利用者のケア計画策定のため、医師の見解を基に家族との話し合いの場を設け、各職種からの立案により介護計画を作成し、他職種と連携しながらケアを行っています。看取りの勉強会も行い、他職種と価値観の共有に努めてきました。今後も各関連機関、家族と連携を図りながら実施していきます。

特養3F

1. 「です・ます」を基本とし、言葉遣いに気を付けて、語調が優しい声掛けを行います。
そして、ご利用者の笑顔を大切にされた接遇を考えて実行します。
⇒内部研修や外部研修で知識を深めて、フロアミーティングで接遇についての話し合いを行なっています。また職員同士で声を掛け合うように意識しています。
2. ご利用者のこれまでの人生にも目を向けて、認知症があっても、終末期になっても、その人らしさを忘れずに、ご利用者やご家族の気持ちを尊重し寄り添ったケアを行います。
⇒利用者様との関わりを増やし、その人を理解できるように取り組んでいます。ご家族に面会時や電話で、情報収集できるように努めています。その人に合わせた生活ができるように、個別ケアにも取り組んでいます。まだまだ向上できるように積極的に取り組んでいきます。
3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組めます。
⇒フロアミーティングで2ヶ月に1回の勉強会を実施して、接遇や事故予防などについての話し合いを行っています。今後も継続して取り組んでいきます。

特養2F

1. 笑顔を大切にして、ご利用者の想いに寄り添います。
⇒居室担当で個別ケアを考えて実行しました。今後もご利用者の想いに寄り添う事ができるように、継続して取り組みます。
2. 目線を合わせて、丁寧な言葉遣いと語調に気を付けます。
⇒定期的にフロアミーティングで話し合いを行ない、接遇について考える機会を作り、向上に

努めています。

3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組みます。

⇒内部研修や外部研修で学び、フロアミーティングで意見交換することで、意識の向上を図っています。今後もスキルアップできるように、継続して取り組んでいきます。

ショートステイ (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2023年度 合計	2022年度 合計	差異
4月	0	1	60	39	94	10	8	212	90	122
5月	0	1	60	39	94	10	8	212	212	0
6月	0	0	28	63	118	14	7	230	210	20
7月	0	2	20	50	115	22	3	212	212	0
8月	0	0	50	69	97	11	29	256	213	43
9月	0	0	9	21	35	5	3	73	215	-142
10月	0	0	23	55	117	33	10	238	191	47
11月	0	0	15	54	123	38	8	238	158	80
12月	0	0	13	23	71	12	7	126	197	-71
1月	0	0	16	20	68	16	16	136	230	-94
2月	0	0	20	58	106	10	13	207	158	49
3月	0	12	26	63	105	32	12	250	205	45
合計	0	16	340	554	1143	213	124	2390	2291	99

昨年対比 104.3% 平均介護度 2.6

デイサービス (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2023年度 合計	2022年 度合計	差異
4月	78	219	500	214	259	87	67	1424	1481	-57
5月	90	243	509	232	293	92	71	1530	1403	127
6月	98	234	464	225	280	92	71	1464	1414	50
7月	95	240	475	278	317	89	64	1558	1435	123
8月	94	258	470	267	286	85	70	1530	1401	129
9月	86	252	484	283	307	85	76	1573	1429	144
10月	89	249	476	288	280	82	57	1521	1537	-16
11月	101	229	488	253	286	75	66	1498	1126	372
12月	78	241	529	252	299	59	72	1530	1446	84

1月	79	207	485	210	275	44	91	1391	1243	148
2月	81	199	472	221	254	65	71	1363	1344	19
3月	84	189	521	231	275	80	61	1441	1532	-91
合計	1053	2760	5873	2954	3411	935	837	17823	16781	1042

昨年対比 106.2% 平均介護度 1.8 (要支援含む)

地域でその人らしい生活を継続する為に、デイだけでなく施設機能を柔軟に活用したサービス提供と、一人ひとりに合わせた個別的な取り組みやコロナ禍で中止していたイベント事を、感染対策を行ないながら少しずつ取り入れてきた結果が利用者数に表れていると思います。

グループホーム (延べ人数)

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2023年度 合計	2022年度 合計	差異
4月	0	147	180	180	0	30	537	526	11
5月	0	124	155	155	43	31	508	542	-34
6月	0	137	150	150	60	23	520	540	-20
7月	0	170	155	155	48	0	528	549	-21
8月	0	155	124	155	99	0	533	533	0
9月	0	150	120	150	90	0	510	540	-30
10月	0	155	124	155	93	25	552	558	-6
11月	0	158	120	120	107	30	535	537	-2
12月	0	186	124	124	93	31	558	557	1
1月	0	186	124	124	93	31	558	558	0
2月	0	174	109	74	58	87	502	504	-2
3月	0	209	123	62	62	93	549	539	10
合計	0	1951	1608	1604	846	381	6390	6483	-93

昨年対比 98.5% (利用延べ人数) 平均介護度 2.4 (昨年度 2.3)

利用者は家庭的な雰囲気の中、認知症ケアの取り組みを行う事により、おだやかに過ごされています。各種加算も算定しています。

ケアプランセンター (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2023年度 合計	2022年 度合計	差異
4月	8	15	53	36	24	7	9	152	156	-4
5月	9	15	56	31	19	9	8	147	155	-8

6月	9	14	55	36	19	7	7	147	147	0
7月	10	15	54	39	20	7	7	152	148	4
8月	9	13	56	35	18	9	7	147	136	11
9月	9	13	53	34	17	9	6	141	149	-8
10月	9	13	53	37	19	12	10	153	160	-7
11月	9	13	54	36	17	9	7	145	149	-4
12月	10	11	51	34	19	11	8	144	150	-6
1月	9	9	53	32	20	9	9	141	136	5
2月	9	11	51	32	19	11	8	141	137	4
3月	9	11	46	37	17	10	5	135	142	-7
合計	109	153	635	419	228	110	91	1745	1765	-20

昨年対比 要支援率 15.0% (-3.3%) 要介護率 85.0% (+3.3%)

担当総プラン作成数は月により対応数が大きく変わり、最終減となりました。要介護状態の方の担当依頼数も増加しており、地域の在宅支援拡大と継続的な加算算定が行えたことで収益効率はさらに改善しました。

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数		
	2023年度	2022年度	差異
4月	1097	1021	76
5月	1258	1125	133
6月	1226	1186	40
7月	1225	1161	64
8月	1147	1127	20
9月	1146	1154	-8
10月	1223	1138	85
11月	1273	1050	223
12月	1279	1105	174
1月	1101	942	159
2月	1139	1063	76
3月	1105	1182	-77
合計	14219	13254	965

昨年対比 107.2%

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、訪問回数を調整する必要場面があります。

ケアハウス (延べ人数)

	延べ人数		
	2023 年度	2022 年度	差異
4 月	842	894	-52
5 月	904	930	-26
6 月	872	878	-6
7 月	923	930	-7
8 月	923	927	-4
9 月	885	900	-15
10 月	930	930	0
11 月	900	874	26
12 月	930	911	19
1 月	900	930	-30
2 月	851	822	29
3 月	930	868	62
合計	10790	10794	-4

昨年対比 99.9%

職員と入居者で生活支援計画を立案し、一人ひとりが年間を通じて達成できるようサポートさせていただきました。また、ケアハウスでの生活を少しでも長く継続していただけるよう、日常のレクリエーションや健康体操などへの参加を促して参りました。

さらに入居者の高齢化が進んできている状況ですので、買い物支援やお薬の管理などの有料サービスを活用する方が増加しました。

2. 機能訓練延べ人数・加算状況

特別養護老人ホーム

	2023 年度				
	個別訓練	機能訓練加算	科学的推進	経口維持	自立支援
4 月	371	2925	100	56	0
5 月	356	2980	102	57	0
6 月	315	2871	101	57	0
7 月	348	3030	100	58	0
8 月	289	2957	138	58	0
9 月	175	2730	103	57	0
10 月	377	2967	104	54	0

11月	315	2878	105	56	0
12月	174	2868	102	55	0
1月	237	2926	102	56	0
2月	260	2786	101	52	0
3月	290	2893	100	54	0
合計	3507	34811	1258	670	0
前年度合計	3781	35048	1200	626	180
差異	-274	-237	58	44	-180

短期入所生活介護

	機能訓練体制 加算	個別機能訓練 加算
4月	282	66
5月	305	61
6月	306	49
7月	272	58
8月	323	61
9月	97	23
10月	306	65
11月	306	65
12月	158	33
1月	175	38
2月	264	64
3月	297	72
合計	3091	655
前年度合計	2864	460
差異	227	195

通所介護

	2023 年度				
	個別訓練	集団訓練	個別機能訓練 加算Ⅰイロ	個別機能訓練 加算Ⅱ科学的	運動機能向上 加算
4月	320	795	1117	140	41
5月	339	845	1192	142	43
6月	302	820	1124	143	46
7月	345	866	1212	137	45
8月	323	843	1176	138	46
9月	318	883	1224	142	46
10月	288	860	1172	139	46
11月	342	807	1153	137	47
12月	264	916	1189	141	43
1月	324	763	1091	143	44
2月	255	819	1080	135	39
3月	265	907	1146	134	38
合計	3685	10124	13876	1701	524
前年度合計	4577	8612	14226	1623	593
差異	-892	1512	-350	78	-69

・加算変更により集団に大集団を算定できなくなりました。

生活機能連携向上加算

	2023 年度				
	特養	ショート加算 Ⅰ	ショート加算 Ⅱ	デイ	グループホーム
4月	100	0	20	181	18
5月	102	0	16	185	17
6月	101	1	15	189	19
7月	100	0	18	182	18
8月	104	0	18	184	18
9月	103	0	10	189	17
10月	104	0	21	186	18
11月	105	0	21	184	19
12月	102	0	16	184	18
1月	102	0	14	187	18
2月	100	0	20	177	18
3月	99	0	23	172	18
合計	1222	1	212	2200	216

前年度合計	1200	53	168	2214	216
差異	22	-52	44	-14	0

3. 入所者（特別養護老人ホーム）の身体状況（2024.3.31 現在実数）

区分			実数	区分			実数	
移動	自立	自立歩行	7	排	日間	便所	自力で可能	4
		杖等の歩行補助 具使用	6				一部介助	45
	一部介助	15	全部介助				6	
	全部介助	72	ポータブル 便器			自力で可能	0	
食事	自己で可能	54				一部介助	0	
	一部介助	15				全部介助	0	
	全部介助（胃ろう）	31	おむつ使用		45			
入浴	自己で可能	0	夜間		便所	自力で可能	4	
	一部介助	23				一部介助	20	
	全部介助	77				全部介助	0	
着脱衣	自己で可能	4		ポータブル 便器	自力で可能	0		
	一部介助	25			一部介助	1		
	全部介助	71			全部介助	0		
褥創者数			1	おむつ使用			75	
看取り			3					
認知度	重度	78	トイレ誘導実施者数				51	
	中度	9						
	軽度	13						

Ⅲ 会議・部会組織

	会議名	開催日		参加職種
所属長	所属長運営会議	第 4 木曜日		各事業所より主任以上職員
	衛生委員会	第 2 月曜日		産業医、衛生管理者、事業統括者、職員代表
	教育委員会	内部研修	奇数月 第 2 木	各事業所委員
		外部研修		
		新人教育		
	リスクマネジメント委員会	事故防止	第 2 木曜日	
		身体拘束廃止		
	行事委員会	行事	第 4 木曜日	
	サービス向上委員会	接遇	偶数月 第 2 木	
		利用者サービス		
		職員サービス		
	感染対策委員会	感染対策	奇数月 第 2 木 (+随時)	
	レク・ボランティア委員会	レク・クラブ	偶数月 第 4 木	
ボランティア・実習				
広報委員会	広報誌 ホームページ	5・7・9・11・ 2 月 第 4 木曜日		
栄養委員会	栄養	偶数月 第 1 木		
夕礼	第 2 木曜日		出勤している全職員	
褥瘡対策チーム	第 2 水曜日		師長・看護職員・機能訓練主任・介護支援専門員・管理栄養士・介護職員	
認知症ケアチーム	偶数月 第 4 木曜日		施設長・次長・認知症介護指導者・認知症介護リーダー研修修了者・認知症介護実践者研修修了者・ 各職種	
特養	特養運営会議	第 4 水曜日		施設長、師長、介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員(入所・ショート)、生活相談員
	入所選考委員会	第 4 月曜日		施設長、医師、師長、介護士長、生活相談員、介護主任、機能訓練指導員、介護支援専門員

	特養実務者会議	第1 水曜日	介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員、看護リーダー、介護リーダー、管理栄養士、生活相談員
	特養フロア カンファレンス	第2 木曜日(特養3階) 当月の前半(特養2階)	介護士長、介護主任・介護副主任・介護職員
	特養ケアカンファレンス	第1・3 火 (2F) 第2・4 火 (3F)	介護支援専門員、介護士長、介護主任、機能訓練主任、生活相談員、管理栄養士、看護職員、介護職員
	喀痰吸引等実施の為の 安全対策委員会	第2 金曜日	施設長、医師、課長、師長、介護士長、介護主任、看護職員
D S	デイサービス運営会議	第4 木曜日	管理者、機能訓練主任、 生活相談員、介護主任、介護副主任
	デイサービス実務者会議	第1 金曜日	管理者、生活相談員 介護主任、介護副主任、介護職員
	デイサービス フロアカンファレンス	第2 木曜日	管理者、生活相談員、看護職員、介護主任、 介護副主任、介護職員
G H	グループホーム カンファレンス	不定期月一回	管理者、計画作成者、介護副主任、介護職員
	グループホーム ケアカンファレンス	第3or 第4 水曜日	管理者、師長、計画作成者、介護副主任、 介護職員
H S	ヘルパーステーション 運営会議	第4 金曜日	管理者、師長、提供責任者
	ヘルパーステーション カンファレンス	第2 火曜日 第3 火曜日	管理者、師長、提供責任者、介護職員、 登録ヘルパー
C H	ケアハウス カンファレンス	第2 金曜日	管理者、師長、生活相談員、介護職員、
C P C	ケアプランセンター カンファレンス	第3 金曜日	所長、介護支援専門員、施設長
	利用者に関する情報又は サービス提供にあたって の留意事項に係る伝達項 目を目的とした会議	毎週月曜日	所長、介護支援専門員
	生活相談員会議	第3 金曜日	施設長、生活相談員、ホーム長、センター長
	看護カンファレンス	随時	師長、看護職員
	機能訓練カンファレンス	適宜	機能訓練主任 機能訓練
	言語療法会議	第2 木曜日	医師、歯科医師、歯科衛生士、機能訓練主任、 管理栄養士、看護職員、介護職員、介護支援 専門員

	音楽療法会議	適宜	医師、師長、機能訓練主任、デイ相談員、ホーム長、介護士長、特養相談員、介護主任、音楽療法士、介護支援専門員
--	--------	----	---

IV 委員会報告

1. 衛生委員会

職員の健康保持増進に関する重要事項について年間計画を立て、毎月の委員会で審議し課題に対する取り組みを実施することで、労働衛生の向上を図ってきました。

具体的には、定期的な職場巡視と過重労働の予防、メンタルヘルスの推進（ストレスチェックの実施、教育研修、常設相談室の開設、等）、健康診断結果等について審議し、研修や各職員への対応を実施しました。

2. 教育委員会

感染症の流行状況を見て、内部研修を資料回覧とウェビナー(動画視聴)と集合研修で実施しました。実施できる選択肢が増えている事で、様々な状況に対応する事が出来ています。外部研修はオンラインだけではなくて、集合研修も実施される事が増えて来ており、それぞれの良さを活用して参加しています。新人教育制度では、プリセプター制度を実践して、働きやすい環境を作り指導を行いました。特定技能1号の受け入れに対しても、言葉の違いや文化や生活習慣の違いに配慮して、いきいきと活躍できる職場作りに取り組みました。

【内部研修】

開催月	研修内容	講師	参加者の職種	開催方法	参加人数		
5月	倫理・法令遵守・プライバシー	管理職以上の職員	管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	ウェビナー	全部署		
	高齢者虐待防止	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署		
	手指衛生	感染対策委員		資料回覧	全部署		
6月	接遇	サービス向上委員		管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	ウェビナー	全部署	
	食中毒	感染対策委員			資料回覧	全部署	
7月	腰痛体操	機能訓練			管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	各部署	全部署
	認知症ケア I	実践者研修修了者				資料回覧	全部署

	災害(BCP)	施設長		資料回覧	全部署
8月	介護事故	リスクマネジメント委員		集合研修	全部署
	看取り	看護師		ウェビナー	全部署
9月	車両事故について	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
10月	フィルス	フィルス担当者		ウェビナー	全部署
11月	人権	教育委員		ウェビナー	全部署
	ノロウイルス インフルエンザ	感染対策委員		資料回覧	全部署
	身体拘束 高齢者虐待防止	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
12月	認知症ケアⅡ	認知症ケアリーダー 研修修了者		資料回覧	全部署
	介護事故について	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	メンタルヘルスケア	衛生管理者		ウェビナー	4等級 以上
1月	身体拘束 高齢者虐待防止	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
3月	メンタルヘルス (全職員)	衛生管理者		ウェビナー	全部署
	褥瘡	褥瘡チーム		資料回覧	全部署
	防災	防災責任者		集合研修	全部署

【外部研修】

月日	研修名	主催	参加者
5/23	社会福祉施設や事業所での食中毒の予防方法について学ぶ	高槻市	片岡 愛
5/10～	介護施設における安全対策担当養	公益社団法人全国老人福祉施	伊佐 泰典

7/31	成研修	設協議会	
6/11	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	天津 恭子
6/12～ 10/3	介護支援専門員研修Ⅱ	大阪介護支援専門員協会	吉岡 富美代
6/23～ 10/5	介護支援専門員研修Ⅱ	大阪介護支援専門員協会	安本 真智子
6/27～ 11/16	大阪府介護支援専門員更新	大阪介護支援専門員協会	津崎 いずみ
7/6	施設職員として働くにあたって	高槻市社会福祉協議会	足立 和貴
7/6	施設職員として働くにあたって	高槻市社会福祉協議会	岩永 由紀
9/8	放課後児童支援員認定資格研修	大阪府	森中 優子
9/20	アンガーマネジメント	大阪市老施協	西里 民子
9/25～ 11/22	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	寺地 孝文
9/25～ 11/22	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	下藪 舞
10/5～ 2/21	主任介護支援専門員研修	大阪府介護支援専門員協会	税所 恵
10/17、10/23 11/1、11/13	放課後児童支援員認定資格研修	大阪府	山岡 裕
11/18	嚥下について考える	高槻島本嚥下栄養研究会	山田 志津子
11/18	嚥下について考える	高槻島本嚥下栄養研究会	國松 ひろみ
11/18	高槻島本嚥下研究会	高槻島本嚥下研究会	古川 幸代
11/18	高槻島本嚥下研究会	高槻島本嚥下研究会	品川 千秋
11/24	新人フォローアップ接遇研修	高槻市民間社会福祉施設連絡会	西里 民子
R6. 1/11～ 3/8	認知症介護実践者研修	高槻島本嚥下研究会	中島 貴子
2/24	防災減殺対策と支援	介護支援専門員協会高槻島本支部	税所 恵

3. リスクマネジメント委員会

【事故防止】

2023年度の1号事故報告件数は、以下の通りです。事故発生を防止するために、原因を究明し対策を実施しています。また、全職員に対して対策について周知徹底をすると共に勉強会等も開催しています。

	1号事故発生数			重大事故発生数		
	2023年度	2022年度	差異	2023年度	2022年度	差異
特別養護老人ホーム	36	45	-9	14	16	-2
ショートステイ	12	6	6	2	1	1

デイサービス	5	3	2	2	0	2
グループホーム	7	4	3	3	2	1
ヘルパーステーション	1	0	1	0	0	0
ケアハウス	1	0	1	0	0	0
合計	62	58	4	21	19	3

【身体拘束廃止】

緊急でやむを得ない場合は、各部署及び委員会で検討していますが、やむを得ず拘束を行う場合については、ご利用者の身体に負担の少ない方法・時間帯で実施するように努力しています。また、拘束廃止に向けての検討を繰り返し行い、ご利用者の精神的苦痛を軽減するよう対策を検討しています。

4. 行事委員会

月日	行事名	内容
3月下旬～4月上旬	観桜会	近隣に出向き桜を楽しみました。
7月上旬	七夕	短冊に願いを込めて笹に飾り付けました。
8月中旬	納涼祭	地域、家族様の参加はなく、全部署中庭にて出店や踊りを披露し実施しました。
	流しそうめん	中止しました。
9月中旬	敬老会	各部署で実施しました。
	かるた大会	中止しました。
12月19日	和太鼓演奏会	当園、中庭で演奏を各部署より観覧しました。
12月中旬	ゆず湯	ゆず湯を堪能しました。
	餅つき会	中止しました。
12月下旬	門松作成	門松を作製し、飾りました。
2月上旬	節分	各部署で実施しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、中止した行事もありましたが、対策内容を一部変更し実施したイベントもありました。また季節を味わう装飾などのイベントについては感染対策の上、実施致しました。

5. サービス向上委員会

【接遇係】

表面上のマナーのみでなく、ご利用者・ご家族が「心あたたまる」接遇がおこなえるよう介護職員向け、事務職員向け等の研修を今年度も書面やオンライン対応で行い、職員同士では、お互いを褒め合える土壌作りにも取り組みました。

また、身だしなみは家庭的な暮らしの場としての雰囲気づくりに努めました。

【利用者サービス係】

<家族会>

特養が主催する家族会のサポート役として、参加予定でした。しかし、コロナ渦で今年度も見送りとなりました。

開催予定日		予定内容	家族参加数
5/未定	特養家族会	未開催	中止
11/未定	特養家族会	未開催	中止

<苦情処理>

ご利用者・ご家族等からの苦情申し出の方法として、各フロアに「意見箱」を設置しております。意見箱の意見は、各事業担当者より回答を得て、それらの意見をサービス向上委員会で集約しております。

なお、利用者等からの意見の回答に関しては掲示板に掲示しております。

苦情に関しては、苦情受付窓口担当者が苦情の詳細について本人等から聞き取りをおこない、改善・解決に向けて取り組んでおります。苦情内容に関しては、苦情解決責任者、サービス向上委員会に報告し改善・解決策の妥当性について検討しております。

サービス向上委員会での苦情の改善・解決に関する審議の結果、必要時には所属長会議に報告し施設全体的に検討しています。

これら内部窓口の他にも、第三者委員、公的機関窓口の説明もしております。

対応した苦情内容は下記、第三者委員にも報告しています。

<2023年度苦情件数>

1. 特別養護老人ホーム	0件
2. ショートステイ	0件
3. デイサービスセンター	3件
4. ヘルパーステーション	1件
5. グループホーム	0件
6. ケアハウス	0件
7. ケアプランセンター	0件
8. 地域包括支援センター	0件
合計	4件

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
特別養護老人ホーム和朗園	杉山 耕平	井谷 尚利
ショートステイ和朗園	町支 椋美	井谷 尚利
デイサービスセンター和朗園	山田 晃平	中野 一樹
グループホーム和朗園	足立 このみ	中谷 翔太
ヘルパーステーション和朗園	山田 志津子	井谷 尚利
ケアプランセンター和朗園	介護支援専門員	古川 幸代
ケアハウス佑和	山岡 裕	中野 一樹
地域包括支援センター	津崎 いずみ	椿 和美

外部第三者委員として、次のように定めています。

第三者委員	
・ 住民代表	佐々木 進次郎
・ 第二東和会病院 名誉院長	榊 原 茂 樹 (TEL 072-674-1008)
・ 住民代表	佐々木 映 吾

【職員サービス係】

今年度は「職員満足度調査」の実施なし。

6. 感染対策委員会

2023年9月当施設における4回目のクラスターが特養3階（利用者32名・職員12名）で発生し、12月～1月にかけては特養の2階（利用者31名・職員11名）で発生しました。ショートステイの利用も中止せざるを得なくなり利用者様には、大変ご迷惑をおかけしたと思います。

2023年5月よりコロナ感染症が5類に移行しましたが、コロナウイルスの性質は変わってないと思いますので引き続き感染対策に取り組みたいと考えております。インフルエンザに関しては今シーズン施設内での流行は防げたと考えます。特養の1回/wのリンクスタッフによる感染ラウンドも定着してきました、次年度はスタッフレベルまで広げたラウンドにも取り組みたいと考えます。

そして利用者・家族に安心できる生活環境を提供していきます。

	活動	備考
4月	施設内ラウンド	管理日誌変更
5月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 定例会議 寝具交換・衣替え 体調チェック	

6月	水質検査 勉強会 施設内ラウンド 体調チェック	食中毒予防 配管洗浄（デイ）
7月	定例会議 体調チェック	冷房使用中の衣類調節 空調や換気の発信
8月	施設内ラウンド 体調チェック	熱中症・脱水症予防
9月	定例会議 水質検査 体調チェック	Vセット備品点検と補充 配管洗浄（CH）
10月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 勉強会 感染マニュアル確認・改訂 体調チェック	感染症発生情報・関連ポスター掲示 インフルエンザ・ノロウィルスの予防対策 各部署へ感染予防の徹底を指示する Vセットトレーニング
11月	定例会議 感染症対策・体調チェック 寝具交換	温度・湿度（霧吹き）管理を各部署へ発信 暖房中の衣類管理 Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 管理日誌変更
12月	水質検査 感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（デイ）
1月	定例会議 感染症対策・体調チェック	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 手指消毒アルコール個人携帯開始
2月	感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示
3月	定例会議 感染症対策・体調チェック 水質検査	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（CH）

7. レク・ボランティア委員会

【レクリエーション】

施設内でのコロナウィルス感染の影響もあり、できるだけ密にならないよう取り組みました。少しでも季節感を感じられるように小規模で実施できるように努めました。

3/3	雛祭り	各部署お内裏様お雛様を飾り雰囲気作り行いました。（甘酒提供）
5/3～5	菖蒲湯	湯船に菖蒲浮かべに楽しみました。
5/2	新茶の会	新茶を提供し、季節感を味わいました。
5/8	母の日	カーネーションを飾り写真撮影行いました。
6/19	父の日	各部署で思考を凝らしてイベント実施しまし

		た。(プレゼント・晩酌会・お花等)
--	--	-------------------

【ボランティア】

今年度のボランティア受け入れは、感染状況を見ながら少しずつ再開しました。イベントごとにボランティアの協力は必要であるため、今後も感染状況を見極めボランティアの参加を検討していきます。

8. 広報委員会

【広報誌】

各部署（特養・DS・GH・CH）および施設全体（つばめだより）広報誌を発行いたしました。

特養：4・8・3月（10月は発行中止）DS：4・8・10・1月

GH：5・8・10・1月 CH：作成していません。

つばめだより：4・8・1月（10月は発行中止）

各部署の対象となる読者に向け内容を検討し作成しました。

9. 栄養委員会

【給食】

ご利用者一人一人の食事から、食レクの企画まで「食の楽しみ」を演出する為、日々検討・改善を重ねています。

感染予防の観点から例年通りの食レクの実施は行わず、相談して可能な範囲での食レク提供としています。

【栄養】

食器の購入、メニューや食材の評価、アンケート結果の検討など、運営に関する課題について委託業者を交えて意見交換し、ご利用者のニーズにいち早く応えられるような柔軟な体制作りを行いました。

10. 褥瘡対策チーム

新入所のご利用者を中心に、ブレデン評価・チーム全員でフロアラウンドを行い、ポジショニング等の評価を行ない褥瘡予防に取り組みました。発生人数は21名(前年比+2名)でした。コロナによる感染対策で居室対応が増えた月には上昇傾向に転じる等、離床の大切さを再認識いたしました。

今後も褥瘡予防に努めると共に、褥瘡発生時はマットレス・クッション・体交枕等の再評価を行ない、毎日の洗浄や薬剤塗布、週一回ラウンドを行い医師による評価・治療等早期治癒に努めて行きます。

今後もスタッフの褥瘡へのリスク感性の継続や報連相がタイムリーに行える環境の維持に努めて行きたいと考えております。

11. 認知症ケアチーム

認知症ケアに関する学びとケア実践の成果として、認知症ケア専門士試験の合格者を増やすことができました。それにより認知症の人がより安心して暮らせる環境づくりを推進している施設として、日本認知症ケア学会より「機関認知」をいただきました。地域の商業施設で開催している認知症カフェについても、地域の協力を借りて継続開催することができました。今後も認知症ケアの専門性の向上を図るとともに、地域に住む認知症高齢者の日常生活・家族支援を強化に努めます。

V 防災訓練

2023年度は施設内でのコロナウィルス感染等ありましたが、各部署での消火設備の説明や避難方法などを新入職員中心に実施することができました。

大規模災害対策として、10月13日に地震想定訓練、3月19日に水害避難訓練を行い、防災への取り組みの意識向上に取り組むことができました。

防災避難訓練

日時	内容	参加人数
6/15	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	22名
10/18	地震想定避難訓練	27名
1/20	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	19名
3/19	水害避難訓練	43名

防災管理委員会構成

(なお、防災管理委員会は、消防計画上の防火対策委員会を兼ねるものとする)

役名	補職名	氏名	担当業務
委員長	統括施設長	井谷尚利	全般指揮(自衛消防隊長兼務)
副委員長	次長	中野一樹	委員長の補佐(自衛消防副隊長兼務)
委員	地域包括支援センター長	椿和美	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	看護師長	東口すみ江	救護担当
委員	生活相談員	杉山耕平	避難誘導対策担当
委員	認知症対応型共同生活介護ホーム長	中谷翔太	夜間対策担当
委員	介護老人福祉施設主任	井上博幸	災害リスク担当
委員	介護老人福祉施設士任	伊佐泰典	職員教育担当
委員	機能訓練主任	榎辺夕子	消防設備・建築設備の点検担当
委員	地域包括支援センター主任	津崎いずみ	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	居宅介護支援事業所所長	古川幸代	地域連携担当
委員	管理栄養士	片岡愛	備蓄担当

() 内消防計画上の防火対策委員会での兼務事項

火元責任者一覧

	担当エリア	補職名	氏名

防火管理者	施設全体管理	次 長	中 野 一 樹
火元責任者	事 務 所	相 談 員	杉 山 耕 平
火元責任者	包括支援センター	包括センター長	椿 和 美
火元責任者	ク リ ニ ッ ク	看 護 師 長	東 口 す み 江
火元責任者	デ イ サ ー ビ ス	セ ン タ ー 長	中 野 一 樹
火元責任者	特別養護老人ホーム2階	主 任	井 上 博 幸
火元責任者	特別養護老人ホーム3階	士 長	伊 佐 泰 典
火元責任者	グ ル ー プ ホ ー ム	ホ ー ム 長	中 谷 翔 太
火元責任者	ケ ア ハ ウ ス	生 活 相 談 員	山 岡 裕
火元責任者	5 階 会 議 室	生 活 相 談 員	山 岡 裕
火元責任者	厨 房	(株)塩梅なにわ	片 岡 愛

自衛消防組織編成表（地震防災応急組織）

	担当	内容
自衛消防隊隊長	井谷 尚利	全般指揮
自営消防隊副隊長	中野 一樹	隊長の補佐
防災センター通報班	椿 和美	通報・地域連携連絡
安 全 確 保 班	事務職員	避難路の確保
救 護 班	看護職員	負傷者の応急手当等
設 備 班	機能訓練指導員	必要物品の用意・管理
通 報 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	施設利用者等への通報
消 火 班	介護職員・サービス担当責任者	初期消火
避 難 誘 導 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	避難誘導、救護
安 全 班	機能訓練指導員	防火戸の閉鎖等

VI 地域との交流

感染症法第五類に移行した新型コロナウイルス感染症対策を継続しながらの取り組みでした。

7・10月は、和朗園のソーラン節踊り連のメンバーが、地域からの依頼を受けて、各お祭りでソーラン節を披露し、コロナ禍を経ての地域行事を盛大に盛り上げました。10月には、高槻市介護保険事業所協議会・認知症支援部会主催の認知症支援事業「ソフトボール大会」へデイサービスの事業所を中心に参加し、当事者やご家族、他の事業所や多職種と交流することができました。また、同月内で五領・上牧地域包括支援センター主催のイオン高槻店で開催された「まちかど健康教室」に参加し、総合介護福祉施設和朗園の特徴や施設紹介を地域に向けて発信しました。11月には五領・上牧地域包括支援センター主催の、徘徊高齢者早期発見のための「あんしん声かけ運動（北大冠地区）」へ参加し、認知症の当事者や家族支援の在り方について地域の住民と共に実践で学びました。令和6年2月には、地域高齢者の実状とその支援対応を共有するための上牧地区セーフティネット会議へ参加し、地域内での支援困難者や多世代にわたる要支援者のサポート

について会議参加者と協議しました。

VII 喀痰吸引研修事業

介護職員による医療連携の一環として、介護職員が利用者に対して行う喀痰吸引や経管栄養の手順を研修する事業を行っています。今年度は9名の受講者があり研修を行いました。筆記試験は8名実施し、7名合格。年度内に実地研修も終了し認定資格を得ることが出来ました。

VIII 初任者研修事業

幅広く介護人材の裾野を広げ、多くの人材を育てていくことを目的に、職員初任者研修事業を今年度1回も開講しました。現在無資格で介護職員として働いている職員のキャリアアップやご自身の親への介護の為と受講理由は様々ですが、今年度も優秀な人材を送り出しました。

開講日 2023年10月16日～2023年12月18日

定員 10名

修了者 9名

IX 放課後ひろば和っはっは

高齢者施設で運営している学童であるため、感染対策の継続は必要になりますが、季節に沿った催しも開催できるようになり、活動機会が増加しています。

また、近年顕在化してきている児童の相対的貧困支援として、食事支援・経済的支援が必要な児童及びその家族等には、食事支援・経済的支援につなげ、児童の健やかな育成につなげることを目的とし、取り組んでまいりました。

- ・年間利用延べ人数 5,573人
- ・開所日数 263日
- ・平均人数 21.1人/日

X 生計困難者に対する相談支援事業

今年度7件の経済的支援をおこないました。1件目、母子家庭で4人家族。生活保護受給中だが、物価高騰に伴い家計が厳しく所持金0となり援助。2件目、父子家庭で4人家族。父は発達障害あり無職。生活保護申請予定だが、手持ちがなく緊急で支援必要となる。3件目は同居人から追い出され住むところがない。転居するのに初期費用がないため援助必要。4件目は母と二人暮らしだが、精神障害を持っており、母が入院となり生活が困難。ゴミ屋敷で母も退院後は入所予定。生活でのサポートが必要なため支援。5件目、難聴と歩行状態不良で、要支援の認定を受ける、父と暮らしていたが、入院してしまい自宅に戻ってくる事が難しい為、自宅は引き払うことになる。本人の住む場所がなくなるため、介護付

きサポートハウスに入居して、生活保護申請予定。入居条件に家電等準備ができないと入居できないため支援が必要。6件目、母と二人暮らしで、精神障害がある。母が入院となり退院しても施設となるので生活保護支給までサポートが必要。7件目、精神障害があり、仕事はしていたがコロナなどの影響で思うように仕事ができず、家賃や光熱費の滞納が多く、所持金も2000円となったため、命をつなぐための経済的支援が必要。

XI 和く和くジム

自立された方のIADL維持目的で、送迎無しのジム、指導者有り1時間程度の形でリハビリ事業として開催しておりますが、今年度はコロナ渦で見合わせております。

曜日	月～土	9:00～11:30	13:00～17:00
Aコース	週1回(月5回まで)	1500円	
Bコース	週2回(月10回まで)	3000円	
Cコース	週4回(月20回まで)	5000円	

	延べ人数		
	2023年度	2022年度	差異
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

XII 音楽療法

認知症予防・健康維持及び生きがい創りの場を提供しますが、今年度はコロナ渦で見合わせておりましたが、「ミュージックセラピー」でグループホーム個別対面対応を1週間に1日から開始しました。

ほんわかミュージックルーム(利用者数:各10名 / 金曜日に2回開催) 再開未定

ミュージックセラピー（利用者数：個別 20分月金曜日開催）

グループホームのみオンラインや個別で開催

	2023 年度			
	ほん和かミュージックルーム	デイ ミュージックセラピー	G・H ミュージックセラピー	特養ミュージックセラピー
4月	0	0	16	0
5月	0	0	12	0
6月	0	0	17	0
7月	0	0	10	0
8月	0	0	9	0
9月	0	0	4	0
10月	0	0	19	0
11月	0	0	16	0
12月	0	0	4	0
1月	0	0	8	0
2月	0	0	11	0
3月	0	0	10	0
合計	0	0	186	0
前年度合計	0	0	36	0
差異	0	0	149	0

2023年度

事業報告書

社会福祉法人 恭生会

在宅複合型老人介護施設 天兆園

【在宅複合型老人介護施設 天兆園の部】

令和5年度総括

令和5年度も、感染対策を行いながらの活動を行うことが出来ました。数年ぶりに大規模行事や、屋外への活動も行いました。又、適切な新型コロナウイルス感染対策を行いながら、専門職員の地域会議への参加や関係職種を集めての施設での会議も行いました。

又、新型コロナウイルス流行以降中止していた、認知症カフェも再開する事が出来ました。内容に関しても通年行っていたイベントが行えるようになり、少しずつ以前と同様の取り組みを取り戻してきています。

I 目標

1. 感染症や災害への対応力を強化します。

法人内、拠点とも連携を図りながら、感染症対策の強化、業務継続に向けた取り組みの強化、災害への地域と連携した対応の強化に努めます。又、茨木市の介護事業所として、北部圏域内事業所の連携についても強化していきます。

⇒災害等があっても出来るだけ事業を止めずにサービスを提供できる BCP の策定を行いました。又、BCP の内容に関しても研修とグループワークを行い、職員への理解を深める事が出来ました。地域と連携した動きに関しては、災害訓練も行いましたが、天候や新型コロナウイルスもあり、共同では行う事は出来ませんでした。

2. 地域包括ケアシステムの推進を行います。

認知症への対応力向上、看取りへの対応の充実、相談機能の強化を行いながら様々な課題を丸ごと受け止める相談支援のネットワーク整備に努めます。

⇒昨年度末より認知症カフェ再開に関する取り組みを実施しており、令和5年度に再開する事が出来ました。地域の方も数年ぶりでしたが、大きな変わり無く、以前の方も参加してくださいました。その中で、「入所施設とは」「福祉用具体験」「体力測定」等、地域の方の悩みを聞きながら取り組みが出来ました。

看取りに関しても研修を行うことで、理解を深めております。

3. 介護人材の確保、ICTの導入を行います。

現場職員研修が研修に参加しやすくなるよう、ICT を使用しての研修や、サービスの質向上を図りつつ安心して働くことができる環境の整備に努めます。また、ICTの導入を推進し、業務の効率化・負担の軽減に努めます。

⇒研修体制に関しては、紙面回覧の形が多く、外部への研修も事務系以外での参加はほとんど出来ていません。令和5年度には認知症介護リーダー研修の参加も申し込みを行っており、介護職員の外部研修を充実して参ります。

II 利用者状況

1、 介護度別状況

ショートステイ (延べ人数)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2023年度合計	2022年度合計	差異
4月	3	16	81	200	175	176	111	762	756	6
5月	0	16	93	231	146	220	106	812	771	41
6月	1	4	88	219	172	165	92	741	760	-19
7月	5	0	94	204	202	179	104	788	791	-3
8月	4	0	83	213	196	191	117	804	496	308
9月	3	0	100	225	178	145	134	785	768	17
10月	6	3	119	216	200	161	116	821	821	0
11月	0	0	140	211	168	161	85	765	783	-18
12月	0	2	148	223	207	143	74	797	771	26
1月	0	5	118	217	180	174	67	761	716	45
2月	3	0	143	194	155	151	64	710	720	-10
3月	0	0	121	183	180	182	106	772	765	7
合計	25	46	1328	2536	2159	2048	1176	9318	9039	279

平均介護度 2.9

昨年対比 103.0%

デイサービス (延べ人数)

	要支援1 (事業対象者)	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2023年度合計	2022年度合計	差異
4月	57	61	336	332	192	156	121	1255	1183	72
5月	62	70	404	386	175	170	135	1402	1171	231
6月	68	69	406	356	185	153	137	1374	1167	207
7月	61	53	368	360	208	136	130	1316	1206	110
8月	67	55	391	360	199	156	137	1365	1288	77
9月	72	50	403	357	223	195	141	1441	1282	159
10月	67	53	392	410	224	181	145	1472	1313	159
11月	64	42	393	422	215	187	146	1468	1276	192
12月	81	50	368	417	201	202	146	1465	1257	208

1月	66	48	346	377	177	184	126	1324	1067	257
2月	67	49	345	345	198	185	118	1307	1107	200
3月	58	49	387	388	210	212	112	1416	1317	99
合計	790	649	4539	4510	2407	2117	1594	16606	14634	1972

平均介護度 2.3

昨年対比 113.4%

ケアプランセンター (延べ人数)

	事業 対象者	要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	2023年 度合計	2022年 度合計	差異
4月	4	23	16	50	47	17	6	5	168	146	22
5月	4	21	15	52	47	15	5	5	164	141	23
6月	4	22	15	56	49	16	5	4	171	143	28
7月	4	25	15	57	49	16	6	6	178	146	32
8月	3	23	18	62	47	14	11	6	184	149	35
9月	3	24	20	61	47	12	11	6	184	148	36
10月	2	23	22	62	47	13	10	6	185	152	33
11月	2	21	24	61	51	13	11	5	188	154	34
12月	3	22	22	61	51	15	12	4	190	154	36
1月	3	21	21	59	53	16	15	4	192	153	39
2月	3	23	20	66	51	18	13	3	197	148	49
3月	3	21	20	68	53	21	13	3	202	148	54
合計	38	269	228	715	592	186	118	57	2203	1782	421

昨年対比 120%

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数	
	2023年度	2022年度
4月	415	462
5月	443	478

6月	396	487
7月	405	492
8月	413	508
9月	406	477
10月	399	466
11月	390	464
12月	380	457
1月	344	385
2月	349	396
3月	364	447
合計	4704	5519

昨年対比 85.2% (2023年度 自費サービス除く)

2. 機能訓練状況 (延べ人数)

短期入所生活介護

	2023年度			
	個別訓練	集団訓練	機能訓練加算	個別機能訓練加算
4月	726	245	114	109
5月	841	254	121	120
6月	726	214	65	78
7月	800	297	116	105
8月	808	337	110	110
9月	790	307	96	96
10月	822	288	97	97
11月	770	298	94	96
12月	776	328	78	75
1月	732	259	63	63
2月	728	209	55	55
3月	807	337	98	99
合計	9326	3373	1107	1103
前年度	8908	2957	987	985
昨年対比	104.6%	114.0%	112.1%	111.9%

通所生活介護

	2023 年度					
	個別訓練	小集団訓練	個別機能訓練加算 I イ	個別機能訓練加算 I ロ	運動機能向上加算	生活機能連携向上加算
4 月	668	416	0	1062	24	150
5 月	748	506	48	1158	22	154
6 月	719	508	0	1140	24	158
7 月	721	490	0	1126	22	150
8 月	677	554	2	1184	25	162
9 月	740	550	108	1164	22	164
10 月	812	458	3	1196	26	164
11 月	802	536	3	1350	23	160
12 月	738	545	51	1214	26	174
1 月	733	450	1	1126	27	158
2 月	631	535	1	1099	26	154
3 月	706	546	0	1298	23	176
合計	8695	6094	217	14117	290	1924
前年度	7967	4928	807	11495	253	1668
昨年対比	109.1%	123.6%	26.8%	122.8%	114.6%	115.3%

2021 年度介護保険の改正で機能訓練加算 I イ・I ロ及び小集団訓練に変更

Ⅲ 地域との交流

日時	行事	内容
R5. 4～R6. 3	山手台福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1 回/年）
R5. 4～R6. 3	石河地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1 回/年）
R5. 4～R6. 3	清溪地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1 回/年）
R5. 4～R6. 3	アルプラザ相談会	商業施設での福祉相談会（1 回/偶数月）
R5. 4～R6. 3	カフェサロン(西河原)	ローレル集会所、サニーハウス集会所、西太田自治会館にて、喫茶サロン
R5. 4～R6. 3	ティーサロン(東太田)	高齢者対象のサロン（10 回/年）
R5. 4～R6. 3	こだま会(西太田)	高齢者対象のサロン、健康講座等（10 回/年）

R5. 4～R6. 3	サニーサロン(東太田)	高齢者対象のサロン (10回/年)
R5. 4～R6. 3	やまびこの会(東太田)	高齢者対象のサロン、歌体操等 (10回/年)
R5. 4～R6. 3	山手台街デイ (山手台)	ななつ星(山手台) (1回/月)
R5. 4～R6. 3	いきいきサロン(安威)	高齢者対象のサロン、健康相談等 (1回/偶数月)
R5. 4～R6. 3	子育てサロン (耳原)	子民家よってこにて、子育てサロン を実施 (1回/月)
R5. 4～R6. 3	こども食堂 (耳原)	子民家よってこにて、こども食堂を 実施 (1回/月) 長期休暇中は (1回/ 週)
R5. 8～R6. 3	子育てサロン (福井)	福井小にて、子育てサロンを実施 (1 回/2か月)
R5. 10	北中子育てサロン	北中にて子育てサロンを実施
R5. 4～R6. 3	S N会議(山手台)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討 (4回/年)
R5. 4～R6. 3	S N会議(清溪)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討 (1回/月)
R5. 4～R6. 3	S N会議 (忍頂寺)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討 (1回/月)
R5. 4～R6. 3	S N会議(北中)	要援護者及び中学校区課題検討(3 回/年)
R5. 4～R6. 3	S N会議(福井)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討、研修 (5回/年)
R5. 4～R6. 3	S N会議(安威)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討 (奇数月)
R5. 4～R6. 3	S N会議(西河原)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討、研修 (偶数月)
R5. 4～R6. 3	S N会議(太田)	地域連携会議、要援護者及び地域課 題検討、研修 (4回/年)
R5. 4～R6. 3	S N会議 (北陵中)	要援護者及び中学校区課題検討(3 回/年)
R5. 4～R6. 3	S N会議 (太田中)	要援護者及び中学校区課題検討(3 回/年)
R5. 4～R6. 3	いきいきサロン (耳原)	高齢者対象のサロン、健康相談等 (1 回/奇数月)
R5. 4～R6. 3	S N会議(耳原)	地域連携会議、要援護者及び地域課

		題検討、研修（奇数月）
R5.4～R6.3	グループホーム運営推進会議	ふれあいぽっぽ運営推進会議（1回/2ヶ月）
R5.4～R6.3	グループホーム運営推進会議	コティ東彩都（奇数月）今年度は開催なし
R5.4～R6.3	地域密着型通所介護運営推進会議	いっぷく（書面開催）デイサービス みのはら（2回/年）
R5.4～R6.3	地域密着型通所介護運営推進会議	コティ東彩都、双子屋（2回/年）双子屋のみ開催
R5.4～R6.3	地域密着型特別養護老人ホーム運営推進会議	ほくしん苑運営推進会議（1回/2ヶ月）
R5.4～R6.3	小規模多機能型支援事業運営推進会議	ほほえみの郷車作（偶数月）
R5.4～R6.3	運営協議会	茨木市地域包括支援センター運営協議会（4回/年）
R5.4～R6.3	いきいき交流広場	ふじだな、朝日丘交流亭、見山、銭原（不定期）
8月、2月	老人クラブ（長寿会）	健康相談と講話、脳トレなど（年2回）
R5.4～R6.3	老人クラブ（車作）	健康体操・講話（1回/月）
11月	耳原地区福祉委員会	グランドゴルフにて熱中症予防講話、相談
R5.4～R6.3	山手台地区福祉委員会	宅配事業（コスモス弁当）支援
6/27～29 7/25～7/27	大手前大学 実習生受け入れ	大手前大学（看護師）の実習受入
8月	夏祭り	太田・西河原・山手台・安威・福井・耳原・清溪・忍頂寺
9～10月	敬老会	安威・福井・耳原・清溪・忍頂寺・太田・西河原地区は開催。（啓発と健康相談）山手台地区は新型コロナウイルスの対応により開催なし
5月12日 11月22.29	ウォーキングイベント	活動の機会、体力づくり（今城塚古墳公園）
11月2日	すこやかカラダづくり～フレイル予防でスマイルチャージ～	アルプラザ茨木でフレイル予防や健康増進のためのイベント開催
6.11月	山手台健康フェスタ	山手台住民を対象に、健康体操や脳トレ、包括等相談窓口についての啓

		発
1月29日	みんなで学ぼう！ 葬儀のいろは	市民講座を開催。市営葬儀や死後の手続きについて学ぶ。
R5.4～R6.3	地域ケア会議	清溪・忍頂寺・山手台と天兆園の各包括で開催（全6回）
R5.4～R6.3	子育てサロン（西河原）	ローレルハイツ集会所にて子育てサロンを実施（6回/年）
R5.4～R6.3	子育てサロン（安威）	安威公民館にて子育てサロンを実施（2回/年）新型コロナウイルスの対応により開催なし
R5.1～R6.3	おやこ de あいのカフェ	藍野大学にて子育て世帯向けの遊び場、くつろぎの場として開催（1回/月）
11月	子育てわいわいネット ワーク	イオン茨木にて子育てイベントを実施 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R5.4～R6.3	民生児童委員協議会 （福井）	福井公民館にて要援護者及び地域課題検討、情報交換等（1回/月）
R5.4～R6.3	民生児童委員協議会 （西河原・耳原）	西河原コミセンにて情報交換等（1回/月）
R5.4～R6.3	民生児童委員協議会 （太田）	太田公民館にて情報交換等（1回/月）
7月	認知症サポーター養成 講座	福井高校にて認知症やCSWの活動、相談窓口について啓発
12月12日	認知症サポーター養成 講座	追手門学院大学経済学部にて認知症や包括等相談窓口について啓発
5月～8月 （計5回）	認知症サポーター養成 講座	アルプラザ社員を対象に認知症や包括等相談窓口について啓発

※SN会議＝セーフティネット会議

IV 行事・イベント・クラブ

全体行事

日時	行事名	内容
5/15	お茶会	お抹茶を点て和菓子を頂きました
9/19	敬老会	祝い年の利用者様の表彰、写真撮影とボランティアによる津軽三味線を実施しました。
10/18	秋祭り	出店（焼きそば）（飲み物）、ボランティアの大道芸人による出し物を楽しんで頂きました

		た。
1/13	新年会	午前中、ボランティア（喜怒家哀楽様）による。落語を披露。午後より職員によるおみくじ、福引きを行いました。

全体イベント・クラブ活動等

日時	イベント・クラブ名	内容
第3水	陶芸教室	職員による陶芸教室を実施しました。
第2金 第4火	喫茶 ひだまり	職員による喫茶コーナーを開設しました。
第3火	書道教室	職員による書道教室を実施しました。
第2火	ハーモニカ ボランティア	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
第4金	俳句ボランティア	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
第1火	詩吟教室	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
各月	誕生日会	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
随時	折り折り教室	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
毎月1回	天兆園の日	各種のイベントと特別料理を提供しました。

その他、デイサービス・ショートステイの各フロアにおいて、レクリエーションに取り組んでいます。

V 研修・会議

【内部研修】

(全体) = 施設全体研修 (中堅) = 中堅職員研修 (指導) = 指導的職員研修

開催年月日	研修内容	講師	参加者の職種	参加人数
5/2	法令遵守について	永森相談員		56
6/6	個人情報保護法	尾崎 CM		56
7-4	在宅介護のための	加来看護師		56

	感染症予防			
8/1	事故対策・事故予防	リスク委員会		56
9/5	看取りについて	ショート 七戸CW		56
10/3	認知症の理解	機能訓練 原	全体	56
11/5	身体拘束について	木村副主任	全体	56
12/5	感染症標準予防策	木村副主任	全体	56
1/9	身体拘束について	木村副主任		56
2/6	非常災害研修	内山 CPC 所長		56
3/21	高齢者虐待について	包括 森SW		56

【外部研修】

開催年月日	研修内容	主催	参加職種
5/12	多様な性と生き方の尊重	茨木市	包括
5/16	ケアプラン研修会	茨木市	包括
6/8	高齢者虐待対応研修	茨木市	包括
6/29	ケアマネ研修会 栄養	茨木市	CM
7/8	茨木市の在宅療養を支える会 口腔ケアと摂食・嚥下	茨木市	包括
7/18～3/31	介護職員喀痰きゅいん研修	社会福祉法人恭生会和朗園	介護職員
7/26	緩和トータルケア研究会	近畿大学病院緩和ケアセンター	包括
9/14	ケアマネ研修会 認知症 について		CM
9/15	処方薬・市販薬依存への理解と対応		CM
9/30	介護支援専門員向上研修 家じまいの作法	大阪介護支援員協会	包括
10/10～12/18	初任者研修	社会福祉法人恭生会	介護職員
11/12	思春期・若者のメンタルヘルス	茨木保健所	包括
1/24	ケアプラン研修会		CM
1/26	権利擁護と支援者	障がい者・高齢者虐待防止 ネットワーク連絡会	CM 包括
2/2	ホワイトボードミーティング講座	WB ミーティング気軽な勉強	包括

		会チーム茨木	
2/20	認知症キャラバンメイト	大阪府	包括
3/18	ケアマネージャー向け研修会 ノンテクってなに？	高齢者サービス事業所連絡 会	CM 包括

会議名	開催日	参加職種
所属長会議	第3火	施設長・管理者・主任・副主任
教育委員会	第3火	生活相談員・介護職員・看護職員・介護支援 専門員
リスクマネジメント 委員会	第3火	介護職員・生活相談員・介護支援専門員・ 機能訓練指導員・ヘルパー・看護師
サービス向上委員会	第3火	生活相談員・介護職員・介護支援専門員 サービス提供責任者・機能訓練指導員
行事・ボランティア 委員会	第2火	介護職員・介護支援専門員・事務職員 看護職員・機能訓練指導員
園芸委員会	第3火	介護職員・介護支援専門員・包括職員
広報委員会	適宜	介護職員・介護支援専門員・包括職員
感染対策委員会	第3火	施設長・看護職員・介護職員・介護支援専門 員・包括職員
衛生委員会	第4金	施設長・産業医・衛生管理者・看護職員 事務職員
介護調整会議	不定期	介護役職職員・フロアリーダー
デイサービス フロアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
デイサービス ケアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員・介護支援専門員
ショートステイ フロアカンファレンス ケアカンファレンス	第3月	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
ヘルパー会議	毎月15日	管理者・サービス提供責任者・ヘルパー
2包括合同会議	月1回	包括職員
ケアプランセンター 会議	毎週火曜日	介護支援専門員

VI 苦情処理及び第三者委員

当施設・事業所では、サービスの向上、利用者の理解を深めるため、利用者からの相談又は苦情に対応する常設の窓口を施設内に置いて生活相談員又は管理者を苦情受付担当者とし、施設長を苦情解決責任者としています。

事業所毎にも苦情処理担当者を配置し、苦情が出た場合は必ず対応記録をとり、管理者と連絡をとりながらすみやかに対応していく体制になっています。また意見箱を1階下駄箱横・2階エレベーター横に設け、誰でも意見が出せるよう配慮しています。

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
ショートステイ天兆園	川井 茂	角野 友哉
デイサービスセンター天兆園	永森 達志	
ヘルパーステーション天兆園	長谷中 小百合	
ケアプランセンターアイ	内山 暁子	
在宅介護支援センター天兆園	福隅 友美	
地域包括支援センター天兆園	中澤 亮子	

苦情に関しては、第三者委員として次のように定め苦情の内容に関しては定期的（4月、10月）に報告をしています。今期は上期2件、下期1件の報告を行い、伝達不足での内容が多かったですが、伝達のツールを利用する事で周知徹底を図っています。

第三者委員	佐々木 映 吾（緑町荘園前自治会長）
-------	--------------------

VII リスクマネジメント委員会

1、事故防止

2023年度の事故報告件数は、下記の通りです。そのうち重大事故の件数（骨折、縫合が必要な外傷等で保険者に報告した事故）は、5件でした。

ショートステイ	63件（4件）
デイサービス	57件（1件）
ヘルパーステーション	3件（0件）
ケアプランセンター	2件（0件）
地域包括支援センター	0件（0件）
<u>合計</u>	<u>125件（5件）</u>

今後、事故が減少するように原因を検証・検討し対策を実施します。また、リスク委員と全職員に周知徹底をすると共に勉強会等も開催していきます。

2、身体拘束廃止

家族の意向で送迎時ベルトを着用するケース	2件
リフト入浴時、タオルで足を固定するケース	1件
てんとう虫利用時、ベッド3点柵	2台活用時

現在、施設では身体拘束は行っていませんが、身体拘束につながる可能性のある場合の対応・記録の重要性について説明を重ね、「身体拘束等の適正化のための指針」及び「身体拘束マニュアル」の再確認と職種による認識の相違をなくすように周知徹底しています。

緊急でやむを得ない場合は、各部署や委員会・施設全体で検討し、やむを得ない場合のみ利用者に負担の少ない方法や時間帯で実施するように努力していきます。その後、

解除に向けて検討を繰り返し、利用者の精神的苦痛も速やかに解除するようにしています。

今後、どんな状況でも身体拘束を行わないで介護ができるよう全員で取り組みを実施していきます。高齢者虐待についても全職員が理解し利用者が快適に過ごしていただける様、努めていきます。

3、虐待防止委員会

虐待ケース	7件	
内訳	身体的	4件
	ネグレクト	1件
	経済・精神的	2件

虐待疑いケース 2件

虐待リスクのある利用者に関して、記録・介護支援専門員への報告、経過観察をおこなっている状況です。

虐待の可能性を含め、虐待防止に向けて意識づけと報告が適切に行っているようにリスク委員だけでなく、全職員の理解と対応を実施してけるように努めます。

2023 年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会

愛光認定こども園

2023 年 度 事 業 報 告

1. はじめに

2023 年度もグループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子ども主体の教育と同時に保護者の就労の保証でもあります保育の両面を目指し、職員一丸となって取り組んで参りました。

2023 年度は世間でささやかれていた「不適切な保育」から始まり、本園でも改めて子どもたち一人ひとりの「人権」について園内研修を行いながら考える時間を設けていきました。その中で、これまでの教育・保育を見つめなおしこれからの時代の考えに適した保育教育を考える 1 年となりました。

高槻市においては 2003 年から 2023 年までに未就学児の数が 5300 人減少していることもあり、将来的な人口減における際の運営確保について大きく考えた一年でありました。そのためにも園児が充足している今だからこそ本園の取り組みを外部へ積極的に発信していくことに重点をおき、将来的な園児数確

保にむけた取り組みを進めて参りました。

まずは前年度より取り組み始めた SNS を使ったの広報活動、コロナにより閉室していた地域の子育て世代へ向けた「あいっこ広場」の再開、私立保育園連盟主催のサッカー大会の初参加、教諭養成学校への積極的な訪問等を行いました。

成果としては、SNS のフォロワー数や視聴者数は前年度を上回る数字となり、それに伴い、あいっこ広場への参加者数の増加、園見学者数の増加、養成校から実習指定園への要請と、外部への情報発信が功を奏した一年となりました。特に養成校から新卒者採用が 9 年ぶりに叶い、3 名の新卒者が入職したこと、またあいっこ広場へ来られ、入園を決めた保護者がいらっしやったことは大きな成果となりました。

2. 園児数について

* 定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員	9 名	17 名	19 名	20 名	22 名	23 名	110 名
平均値	9 名	18 名	21 名	25 名	25 名	23 名	119 名

園児数の実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
4 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
5 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
6 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
7 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
8 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
9 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
10 月	9 名	18 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名
11 月	9 名	19 名	21 名	23 名	24 名	24 名	120 名
12 月	9 名	19 名	21 名	23 名	24 名	24 名	120 名
1 月	9 名	19 名	21 名	23 名	24 名	24 名	120 名
2 月	9 名	19 名	21 名	23 名	24 名	24 名	120 名
3 月	8 名	19 名	21 名	23 名	24 名	24 名	119 名

3. 職員体制

園長	1 名
----	-----

主幹保育教諭	1名
指導保育教諭	2名
保育教諭（非常勤含む）	22名
事務	1名
看護師	2名
管理栄養士	1名
保育補助	5名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1名
嘱託歯科医（田村歯科）	1名
薬剤師（東和会薬剤師）	1名

＊クラス担任数

0歳児 (りす)	1歳児 (うさぎ)	2歳児 (やぎ)	3歳児 (きりん)	4歳児 (くま)	5歳児 (ぞう)
3名(1人)	6名(1人)	3名(1人)	4名(1人)	2名(1人)	2名(1人)

上記の職員は常勤換算です。

() 内フリー職員

- ・2023年度は指導教諭をフリー職員とし、乳児幼児共に1名ずつ配置することができました。これにより、各クラス間のコミュニケーションをより深く行うことができました。
- ・2023年度も非常勤の職員をクラスに固定することで、クラス一丸となって教育・保育を進めることができました。
- ・常勤職員が4名退職することとなり、さらに求人活動には力を入れていきます。本園の職員の定着が課題となった1年でもありました。

4. 教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い、人を大切にできる心を育てます。
- ・価値観が多様化する今の時代において、本園の目標である「生きぬく力」の確立のためにはコミュニケーション力が重要と考えます。そのため乳幼児期から対話的コミュニケーション力の獲得が期待できるフィンランドメソッドを教育保育に取り入れて進めています。
- ・幼児期に育てたい10の姿を目標とし、行事のための保育・教育ではなく子ども達が主体的に興味・関心ごとに没頭できる保育カリキュラムを作成しています。

5. 具体的取組み

- ・これまで固定となっていた行事内容について職員会議を重ねる中で見直し、

毎年決められた取り組み、内容を園児たちに「させる」のではなく、園児達が何を求め、何を挑戦したいのかを表出できる環境を設定していく応答的なカリキュラムに重点を置きました。主に乳児クラスでは行事のために全く新しいことに挑戦するのではなく、日常の保育教育の中で、園児たちが取り組んでいることに注目し、その活動の延長線上に取り組み内容を設定することで取り組み時に泣いたり力を発揮できなかつたりすることが少なくなりました。

幼児クラスでは円になって話し合うサークルミーティングの時間を設け、園児たち自身が取り組みを決めて行事に向き合いました。特に取り組みの成果を著しく感じた教育場面では、運動会の演目や発表会の劇遊びです。内容や園児たち一人ひとりの役割を自身達で決めていき、その中にはフィンランドメソッドにある「他者との関わり、対話」があり、「自分」だけではなく「あなた」という他者も意識したカリキュラムに設定することで、園児たちは大人の力に頼らずに自ら考え、行動するより主体的な教育保育を実現しておりました。

2023年度は「食」をテーマとした教育、すなわち「食育」にも力を入れた一年でした。毎月1回世界の絵本とリンクしながら「世界の料理」を提供し様々な食材や味に触れていく機会を設けました。またSNSを通して外部に発信することで保護者や地域の方々等にも好評をいただき、本園の「食」に関する付加価値を見出すことを実現させました。

・課外教室

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
リトミック音楽	○	○	○	○
体操・体幹教室	体幹教室	体操教室	体操教室	体操教室
英語で遊ぼう	○	○	○	○
スイミング			○	○

・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

2023年度はより講師の先生方と連携を密にし、カリキュラムを作成しながら各クラスの取り組み課題や次の目標に向けて話し合う時間を設けていきました。

一方で、スイミングはこれまで、園とスクール側との話し合いがなされておらず、スイミングの指導方法に行き違いがあったことがわかり、半年間スクール側と話し合いを設け、次年度へ向けての取り組みや目標、安全について話し合い、スクールと一緒に新たなカリキュラムを作成しました。

*地域子育て支援及び地域支援事業

・障がい児保育

2023年度に個別配慮が必要となる園児は自閉症児が2名、場面緘黙児1名、コルネリアデランゲ症候群（胃ろう児）1名の合計4名でした。年々配慮が必要な園児が増えておりますが、「愛」と「和」と「人権尊重」の理念のもとインクルーシブ保育に努めて参りました。

胃ろう児の教育保育に関しましては、具体的には園だけでなく、家庭、医療機関との連携を密にケース会議等を行い、どのようにすれば合理的なケアができるのかを追及していき、これまで叶わなかった遠方への園外保育や課外教室の参加など新たに多くのことを実現させていきました。

また自閉症児に関しては高槻市の公民の療育支援施設との連携、見学、ケース会議を重ね、包括的な支援を行い、一人ひとりに適した関わりを見つけながら教育保育を進めることができいております。

・土曜日保育・延長保育

土曜日の登園は年々増加傾向にあり、毎週20名を超える受け入れがあります。そのため、4名の職員の配置が必要となり、公休・有給を消化するためにもどうしても保育・教育が盛んな平日に休みを取らざるを得ない状況となっております。

延長保育に関しても同様に、18時以降の未降園児の数は増加しており特に0歳児の園児も残っていることから保育教諭の最低配置基準を考えると2～3名の配置を考える必要があります。

・あいっこ広場（子育てサロン）

今年度より、高槻市子育て支援センターすくすくの地域子育て支援事業を引き継ぐかたちで、本園が主となり、地域の子育て世代へ向けた園庭開放やスペースの開放を行っております。

専任の職員を配置し、SNS等を活用することで、当初は参加人数が減少傾向にありましたが、管理栄養士による離乳食の相談や、看護師による身体計測の実施等口コミが広がり、定員の15名に迫る参加人数が集まるようになりました。またあいっこ広場を通して入園を希望され、2024年度の入園につながったご家庭もあります。少子化の中、こういった地域支援を広げていき園児数確保へつなげる取り組みは次年度も続けていきます。

・毎月「あいっこ」だより、「ほけんだより」及び「給食だより」の発行だけでなくホームページの改編や150回以上のインスタグラムの投稿等、保護者へ向けて情報発信を積極的に行うことができました。

・社会福祉法人照治福祉会様との訪問型ボランティア事業であるホームスタートへも本園職員のビジターが年間5家庭訪問し、地域貢献に携わるこ

とができており、訪問員を養成する講座を開催するホームスタートオーガナイザーも一名、本園より誕生しました。またコミュニティソーシャルワーカーとして地域貢献事業に4件携わり、食材支援や住居設定支援を行うことができております。

6. 年間行事

月	行事	月	行事	
4月	入園・進級式・お花見・	10月	運動会・遠足・芋ほり 高槻緑化フェア参加	上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。 ・新型コロナウイルス第5類に移行し、様々な行事・イベントに参加することができるようになってきました。特に年長児のデイキャンプや地域の老人
5月	遠足・個人懇談会 玉ねぎ堀り・プラネタリウム鑑賞	11月	作品展 クラス懇談会 年長児ディキャンプ	
6月	尿検査・歯科検診 クラス懇談会	12月	クリスマス会 餅つき 地域の老人会クリスマス会	
7月	プール開き・七夕会 夏祭り	1月	獅子舞い・年始の集まり	
8月		2月	節分・生活発表会 0.1.2歳児個人懇談会	
9月	交通安全教室	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・3.4歳児個人懇談	

会主催のクリスマス会の参加、高槻市の緑化フェアのゲスト出演など少しずつですがコロナ禍前に戻ってきており、本園を地域にアピールできる機会が増えました。

・食育の取り組みとして、給食を「家族以外とする初めての会食」としてとらえ全て食べさせる「完食主義」を見直し、「楽しい時間」になるように見直しました。また、月に一度の世界の料理の設定や、近くの八百屋さんからの協力を得て、実際に野菜を買いに行ったり、その野菜を調理したりしながら、「おいしく」「たのしく」食育活動を進めることができております。

7. 避難訓練について

・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	災害発生時の避難訓練	災害時の役割の確認 避難経路の確認
8月	火災（小学校に避難）備蓄品の確認	小学校に非難するほどの大規模災害を想定した訓練 備蓄品の確認
9月	前期訓練のまとめ	乳児幼児の保育教諭に分かれてこれまでの避難訓練の振り返りを行う 園児達への非常食の提供
10月	AEDの使い方 看護師指導	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ
11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る 備蓄品の入れ替え
1月	阪神大震災の話しを聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認 園内研修において発電機等の使い方を学ぶ
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分け合い暖をとる訓練
3月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

8. まとめ

不適切な保育が世間でささやかれるようになり、これまでの保育教育をもう一度見つめなおし、これまでの「させる」「やらせる」保育教育からよりこどもたちの興味・関心に沿った主体的な保育教育が求められる時代に移り変わってきています。そのためにも既存のカリキュラムの変更や職員の保育教育観の再構築が必要になっており、2023年度に園内研修や行事等の

見直しを行い、より応答的なカリキュラムにしていくことで時代の保育ニーズに則した保育教育をスタートすることができております。

高槻市における未就学児の人口減少においては、今後の園運営において大きく危機感を感じているところであります。はじめに述べさせていただきました通り、5300人の人口減少は150人定員の幼稚園、保育園、認定こども園が約35園不必要になってくるという計算ができ、実際に公立の幼稚園、保育所は合併を繰り返し、園そのものを減らしていつている状況です。また高槻市の待機児童ゼロを謳った小規模園も今後は閉園傾向に向かうと思われま

す。それらを踏まえるとこれまで通りの取り組みを進めていくのではなく、本園の付加価値を見出しながら、園児の獲得を目指す時期ではないかと考えております。その中で本園の新たな取り組みや活動を絶えずSNS等を通して発信できたことは大きな前進であったと考えております。

入園された保護者や入園希望の保護者の話の中では、園を選ぶ要因としてやはりSNS等を通じて園の取り組みや内容を見て、園に対して興味を持つという意見が多く聞こえてきました。スマートフォン、モバイル端末等で簡単に情報が得られる時代だからこそ、保護者もまたその情報が一時にとどまらず、常に新しい情報を発信していることが園を選んでもらえる要因になってくるのではないかと考えております。

また2025年に本園は開園20年を迎えます。20年を迎えるにあたり、内装、外装ともに経年劣化による破損が生じております。特に園庭の遊具、調理器具保育教育室の床等破損個所が目立ってきているため修繕、補修が必要となっております。次年度は修繕を含め計画する必要がありますが、修繕、補修することは「園が新しくなる」「キレイになる」という、園の宣伝効果的にもプラスになるためその取り組みもSNSを通じて発信していく予定としております。

今後は少子化そして新たな保育教育の在り方がより問われ始めてくると感じております。より保護者に開かれた、地域に根差した園となり、今後30年、40年そしてその先も続いていける園になるよう職員が感性を磨き、常に新しいことに取り組んで参ります。

2023 年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会 和光認定こども園

2023 年 度 事 業 報 告

1. はじめに

グループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子ども主体の教育と同時に保護者の就労保証でもあります保育の両面を目指し、職員一丸となって取り組んで参りました。少子化と言われますが、本園への入園希望は多く、職員のモチベーションアップに繋がり、私たちは常に質の高い教職員の集団であると言う高い意識をもち、教育に向き合いました。また、新型コロナウイルスが5類となり、行動制限が緩む中子ども達の健康管理は第一と考え、働く保護者の、安心して繋がり仕事に集中できるよう、最大の努力を惜しみませんでした。状況は少しずつ緩和され子ども達の生活習慣や活動に変化や改善が見え始めてきました。

従来のこども園としての機能を果たし続け、日々の教育保育、そして行事への取り組みを工夫しながら、教育を止める事なく、また、保護者の就労を保障するという大前提のもと、質の高い保育内容の維持に努め、地域の子育てを支える拠点としても、重要な役割を果たしております。

2. 園児数について

*定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	9名	18名	22名	23名	23名	25名	120名
平均値	9名	18名	22名	27名	31名	27名	134名

園児数の実績

1号認定14名含

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
5月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
6月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
7月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
8月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
9月	9名	18名	22名	27名	31名	28名	134名
10月	9名	18名	22名	27名	30名	28名	134名
11月	9名	18名	22名	27名	30名	28名	134名
12月	9名	18名	22名	27名	30名	28名	134名
1月	9名	18名	22名	32名	30名	28名	134名
2月	9名	17名	22名	32名	30名	28名	134名
3月	9名	17名	22名	32名	30名	28名	134名

3. 職員体制

園長	1名
主幹保育教諭	2名
指導保育教諭	2名
保育教諭（非常勤含む）	34名
事務	1名
看護師（非常勤）	5名
管理栄養士	1名

保育補助	7名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1名
嘱託歯科医（田村歯科）	1名
薬剤師（東和会薬剤師）	1名

＊クラス担任数

0歳児 (すみれ)	1歳児 (たんぽぽ)	2歳児 (ひなぎく)	3歳児 (なのはな)	4歳児 (なでしこ)	5歳児 (ささゆり)
3名	3名	3名	2名	2名	2名

上記の職員数は常勤換算です。

- ・クラス担任が有給休暇や研修出張の場合フリー保育教諭が、クラスを補う為、常に全クラスを把握している事が求められます。
- ・保育教諭はその仕事だけではなく、人としての在り方とその姿勢が問われ、保育教諭は専門職としての、日々の保育と教育の課題に気付き、必要な研修会に積極的に参加の予定をする中コロナウイルス感染拡大により、外部研修も中止やリモート研修に切り替わる事が多くなりました。しかしリモート研修を上手く利用することで、時間短縮や費用の削減ができるなどの利点は大きかったです。キャリアアップ研修等も経験年数を重ねた職員が順次進めて行き、日々の保育意識が変わってきました。

4. 教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い人を大切にできる心を育てます。
- ・フィンランドメソッド教育を基本に「遊びと学び」が教育・保育の柱です。子どもは遊びを通して成長して行きます。どれだけ遊びを経験し、「頭」「体」「指先」を使って、心を動かされたかが成長の要です。「学ぶ意欲を育てる」子どもの主体性を大切にしながら、保育教諭の働きかけは常に子どもに向けられています。
- ・教育のコンセプト上牧の自然を活用した、広い園庭での戸外あそびからの好奇心を育て絵本の読み聞かせによる対話的コミュニケーションを重視した教育を取り入れています。
- ・幼児期において育みたい、思考力・判断力・表現力の基礎を育てます。非認知能力を育て、主体性をもち生き生きと日々の遊びに熱中し、優しさを受け優しさを返せる人に育ち、社会性を身に付けながら成長していきます。

5. 具体的取組み

- ・0歳児から2歳児は「養護」を基本とした、心の安定から「安全安心」の保育

そして、この年齢の子どもは特に月齢による、成長の幅が大きく、同じ学年でも、4月生まれと3月生まれでは大きな差があります。その事を踏まえて、乳児保育を特化することにより、緩やかな成長曲線を描けるものと今後の成長に期待されるところであります。この独創的な保育が評価され、保護者からの信頼も得る事ができました。同時に園への理解と協力も得られ、この時期の子どもの成長には目を見張るものがありました。保護者の子育ての不安も取り除く材料にもなる事ができました。

また、3歳児から5歳児は子ども園としての、毎日4時間以上の教育の時間を確保し、遊びと学びを重視した保育計画を立て、縦割り保育にも力を入れ、結果子ども同士の刺激を受け、課題にぶつかると対話的解決策を見出し、その解決の難しさを経験しながら、年齢と精神的発達に合わせた社会性をも身に付ける事ができました。

・ 課外教室

	3歳児	4歳児	5歳児
リトミック音楽	○	○	○
英語		○	○
サッカー教室		○	○
菜園	○	○	○
かずあそび		○	○

・ 課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

また、保育教諭の学びともなり、保育の質を上げる事にも繋がっています。

実費となる為参加は希望制ですが、全員希望し保護者の熱心さが伝わります。

* 子育て支援事業について

・ 障がい児保育

要配慮として高槻市より保育教諭の加配を認められているのは、3歳児1名、4歳児3名2歳児1名

・ 医療的ケア児の受け入れ

5歳児気管支軟化症 2歳児上気道狭窄 痰吸入・経鼻栄養・酸素吸入を必要とする園児の受け入れ 看護師必置の為ベテラン非常勤看護師により受け入れ準備が整い現在に至っております。高槻市では医療ケア児の保育には遅れがあり、我が東和会グループ傘下のこども園としては、先陣を切った取り組みに、今後の医療・障がい児教育に働きかけ、障がいがある子もない子と共に育つインクルーシブ保育を目指し積極的な受け入れを考えています。インクルーシブ保育から2歳児の重症疾患をもつYさんに大きな成長がみられ

ました。十分成果が上がっているものと、確信し次年度に繋いでいきます。

・延長保育

延長保育の利用者は、月平均 380 名（累計）月によりばらつきあり、保護者の就労が多様化してきたが、コロナ感染拡大の影響で延長利用者が減少にあった。在宅と言う働き方の変化にも、子どもの保育時間の変動はありました。今後保護者の働き方にも変化が予想されるところではありますが、延長保育は子どもの立場では、減少されることは望ましいと

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4・5 歳児	合計
4 月						
5 月			1 名			1 名
6 月		2 名	2 名			4 名
7 月	2 名	2 名	2 名			6 名
8 月	5 名	1 名	3 名			9 名
9 月	5 名	2 名	3 名			10 名
10 月	6 名	2 名	3 名			11 名
11 月	7 名	2 名	4 名			13 名

思えます。
・園庭開放
一般家庭の子どもと園児が共に、安心して遊べる場として、実施しています。

ます。

コロナの影響を受け実施を控える事にもなりましたが、今年度は少しずつ開始の方向へと進んでいきました。参加人数も増えています。

・一時預かり事業

12月	5名	2名	4名			13名
1月	7名	2名	5名			14名
2月	5名	2名	4名			12名
3月	5名	2名	4名			12名

・一時預
かり事業
の推移
(一般
型・幼稚

園型)

この事業は、仕事復帰を見据えた保護者の希望が多く、0、1、2歳の利用が目立ちます。希望者が多く次年度に向けた保護者の子育て支援としても、大切な事業の一環です。

***保護者支援・地域交流の取り組み**

- ・毎月園だよりクラスだよりとほけんだより、給食だよりの発行
- ・委託医による健康相談 隔月に実施する為、保護者からの相談は多く信頼度も高い、受診するほどでもないけれど、相談できる窓口があることは働く保護者にとっては、安心に繋がります。
- ・昨年度はコロナ感染拡大の為、老人施・地域交流・地域夏祭り等全ての地域交流が中止となりましたが、5類になり地域との交流が図れるようになり、活気づいてきた様子が伺えます。

***守秘義務及び個人情報の取り扱いについて**

- ・児童とその保護者に係る情報の守秘については、法人規定により全職員が誓約書を提出した上での職員指導を徹底しております。

6、年間行事

月	行事	月	行事
4月	入園・進級式・ こいのぼりフェスタ	10月	運動会・遠足・芋ほり やきいも大会
5月	遠足・個人懇談	11月	
6月	尿検査・歯科検診 個人懇談	12月	クリスマス会 餅つき・
7月	プール開き・七夕会 5歳キャンプ(場所変更) 地域の夏祭り	1月	凧揚げ大会
8月	夏祭り	2月	節分・生活発表会・
9月	和朗園・老人会(中止) プラネタリウム見学	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。
・園行事は感染防止を図り、密になる事を避け、行事自体のやり方が、コロナを経験したことにより見直

しました。結果子ども主体で成果を上げる事ができた事は職員の努力の上に成り立ちました。

・食育の取り組み

自園の畑で夏野菜（トマト・きゅうり・ゴーヤ）の成長観察をしました。

水やりや肥料、太陽の自然の恵みを受けて育つ姿を見る事で、食べ物の大切さが身についていきました。

毎月1回の食育会議で、給食業者とのメニューや内容また、アレルギーについて話し合い誤食を防ぎ、食に対しての興味を高め「望ましい給食」をテーマに食の大切さを知る事ができました。

7. 避難訓練について

- ・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	プールについて水難事故	水遊びやプールの危険性について知る 安全なプールの楽しみ方を学ぶ
8月	火災	指示を聞き落ち着いて避難し、保育士は避難経路の確認と役割の確認
9月	地震（防災頭巾を使用）	地震の避難の仕方を知り、落ち着いて行動する
10月	AEDの使い方	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ

11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る
1月	阪神大震災の話 を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分け合い暖をとる
3月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

- ・園児対象に警察官による、安全教室も今年是对面で始まりました。
- ・消防署員による AED 講習や、水難事故や怪我の応急処置など全体研修として職員間で共有し、知識として学べました。

8. まとめ

コロナウイルス 5 類により、感染には注意を図りながら元の生活にもどしコロナを経験して、合理的運営ができるようになった利点もあり、その点では最善の努力と工夫により、子ども主体の行事を組み立て行事や日々の保育の見直しの良い年にもなりました。

この事がしいては、子ども達の育ちに繋がっていき、現状と照らし合わせた工夫を重ね、自分で自分の遊びを広げて行く事を実現する事ができました。

*考える力・伝える力を身に付けられる教育保育を目指す質の高い教職員の集団であることを自覚し自尊心自己有能感を身に付けられる子どもを育てます。
これは、今後の目標としても継続をはかりたいと考えています。

*障がい児保育枠ではありますが、医療ケア一児を民間のこども園が受け入れると言うケースが少ない中、看護師との連携を図り安全に進めて来ました。

なによりもその園児の成長には目を見張るものがあり、同年代の子ども同士の刺激が大きく作用しているものと、保護者と共に成長を確信し、今後の保育に繋がりたい。「障がい児保育」と一言では表現できないくらいに、医療ケア一児に限らず子ども達が抱える課題も多様化してきております。どの保護者の願いは同じ“普通の子と一緒に育てたい”の思いです。それぞれの成長に合わせた教育・保育を目指し、インクルーシブ保育を積極的に進める中でも、安全が何よりも第一目標であり、対象児の子どもは勿論の事ですが、担当にあたる看護師・保育教諭の安全と安心感をもって、日々の仕事に向き合えるよう環境を整える事が大切と考えます。子育て真っ只中の地域の皆さんに寄り添い、地域に根ざしたこど

も園作りを今後も職員一丸となって取り組んで参ります。